

百合便り

校長だより9月号



風音祭が終わりました。体育祭は雨にも負けず、全競技が無事終了しました。赤組と青組の同点総合優勝という初の結果となりました。そして文化祭もまた台風に悩まされながらも両日とも予定通り開催、3074人の来場者に楽しんでいただきました。

行事になると生徒たちはリラックスした表情に変わります。「行事を盛り上げる」「行事を楽しみたい」というはっきりとした目標を強く認識しています。そのため、その行動に迷いはなく、教室の装飾、当日の分担、仲間から指示された作業を文句も言わずこなします。仕上がってくればおのずと意見が出て「こうした方がよい」「これはいらぬい」など自分たちで全てを創り上げていきます。

授業なら先生の指示に従うだけであったり、既習内容を冷静に振り返りながら自分の世界を深めていくのに、行事となると人とのつながりから横の世界を広げ、そこに誰の指示でもなく自由発想を盛り込んでいきます。この思考の深まりと達成感、肯定感は授業の比にならないものがあります。

学校はもちろん学びの場ですが、人と人が顔を突き合わせ話をし、目的を一つに活動していく場面にも大きな意義がある、行事での生徒の表情を見ればその良さを再確認します。最近SNSの世界で面識のない人とのつながりの中、言葉だけが先行し、時に言葉に疲れ、人に億劫になってしまう現状も否めませんが、学校でのこのふれあいはそんな時代になったからこそ再度その意義を職員も生徒も実感できるのかもしれない。

体育祭の講評で「今日は授業よりも楽しかった」と生徒たちが返事をしていました。「楽しい」と感じられること、その意義を、意味を、持てる力になっていることを生徒自身が感じられるよう伝え続けたいと思います。